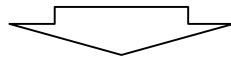


山口県下関市における「デイトム買い物バスカード『むさし』」実証実験計画の概要

(平成15年7月～17年6月)

背景

- ・下関市の中心市街地はJR下関駅、バスターミナル、複合商業施設「シーモール」等を中心に、市の南端に位置しており、バスやマイカーを利用して移動する必要がある。
- ・特に中核的複合商業施設「シーモール」は、マイカーでの来店が半数であるため、休日を中心に駐車場待ちの車で周辺道路が混雑している状況である。



概要

午前9時から午後4時までの時間限定の4千円のバスカード「デイトム買い物バスカード『むさし』」(売値3千円)をシーモール内にある大丸の案内所で示せば、買い物額3千円ごとに1ポイントつき、20ポイント貯まると千円分のバスカードがもらえる。

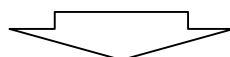
タイアップロゴ入りバスカードを発行し、サンデン交通と大丸で協同してイメージ宣伝をする。

バス事業者は来客の半数がマイカー利用客でありこのうち一部をバスへ利用転換する。

(来客者交通手段 マイカー50% バス26% JR13%)

大丸は新たな買い物客の発生が期待される。また、中心商店街の活性化を図れる。

マイカーからバスに利用転換することで、CO2の削減と渋滞の軽減を図る。



実験の途中結果

平成17年3月時点で「むさし」の売り上げは累計76,343枚で大丸のみの販売は21,007枚。月平均3千枚(大丸1千枚)で、開始以降好調に推移しており、下関バスターミナルの乗降客も実施前に比べて増加している。

(実験継続中)